

神戸常盤大学の教育課程

神戸常盤大学 教育目標と5つのポリシー

神戸常盤大学 ときわコンピテンシー

基盤教育の説明

保健科学部の教育理念

学科別履修要領 医療検査学科

診療放射線学科

口腔保健学科

看護学部の教育理念

学科別履修要領 看護学科

教育学部の教育理念

学科別履修要領 こども教育学科

神戸常盤大学 教育目標と5つのポリシー

【ときわ教育目標】

本学は、建学の精神の下、知性と感性を備えた優れた専門職業人の育成を目標としている。この目標に向けて、全学および各学部・学科は入学、教学、卒業（学位）、評価、支援に関する方針（ポリシー）を定め、以下のように組織的かつ計画的に教育を行う。

- ①学生一人ひとりの個性、能力、希望等に応じて十分かつ適切な教育を正課・準正課・正課外を通して行い、「ときわコンピテンシー」の修得を図る
- ②前項の教育に加えて、学生一人ひとりが目指す社会的・職業的自己実現に向けて十分かつ適切な支援を行い、学びの進展を図る

※「ときわコンピテンシー」は、知性、感性、専門性、市民性から構成される。

【全学ディプロマ・ポリシー（DP）】

本学は、ときわ教育目標に向けて行われる正課の教育において、次の条件をすべて満たす者に対し、学位を授与する。

- ①学部・学科に所定の期間在学すること
- ②「ときわコンピテンシー」に示された特性を、主体的に修得しようとする態度が形成されていること
- ③学部・学科が定める審査に合格し、卒業に必要な単位を修得すること

【全学カリキュラム・ポリシー（CP）】

本学は、ときわ教育目標に向けて、「基盤教育分野」「専門教育分野」を設置し、その教育課程を次の方針に沿って体系的に編成する。

- ①「ときわコンピテンシー」に掲げる諸能力の修得を促すため、科目の内容等に即した最適の学修形態を整える
- ②「基盤教育分野」に、「学びの始め科目群」「人間探究科目群」「創造実践科目群」を置く
- ③「専門教育分野」は、学部・学科が定めるカリキュラム・ポリシーに従って編成する
- ④学修の成果をアセスメント・ポリシーにより不断に検証し、教育課程の改善を図る

【全学アドミッション・ポリシー（AP）】

本学は、建学の精神の下、知的、道徳的に優れた医療・教育の専門職業人を育成している。この目標をもつ本学は、「建学の精神」「ときわ教育目標」および学部・学科が定めるアドミッション・ポリシーを理解し、あらゆる人の「いのち」を医療や教育を通して支えていく意欲をもつ人を求める。

【全学スチューデントサポート・ポリシー（SSP）】

本学は、ときわ教育の主たる目標である、すべての学生の多様な学びと成長を保証し、各人が掲げる社会的・職業的自己実現のために、次の方針に沿って組織的かつ計画的に支援を行う。

- ①学生一人ひとりが自ら定める目標の達成に向けて、日々の学びを円滑かつ効果的に進められるよう、必要な支援を行う
- ②すべての学生が大学生活に順応し、日々楽しく学生生活を送ることができるよう、必要な支援を行う
- ③その他、ときわ教育目標の達成に必要と認められる支援を行う

【全学アセスメント・ポリシー（ASP）】

本学は、ときわ教育目標を達成するため、教学・支援その他の事項に関して、次に掲げる評価を毎年度定期的に行う。

- ①大学および学部・学科を対象とする評価
- ②授業科目を対象とする評価
- ③学生個人を対象とする評価

被評価者は評価の結果を受けて、必要と認められる事項に関して、適切な改善を行う

神戸常盤大学 ときわコンピテンシー

本学は、全学共通で育成したい人物像を【ときわ教育目標】に掲げています。それは「知性と感性を備えた優れた専門職職業人」であり、これを学内では「ときわびと」と呼称しています。

そしてこの「知性と感性を備えた優れた専門職職業人」がもっている行動特性（コンピテンシー）を本学では、【知性】【感性】【専門性】【市民性】の4つと考え、これを「ときわコンピテンシー」としています。

知性とは

物事を知り、考え、判断する能力のこと。特に本学においては、矛盾した状態に気付いたり、問題を発見したりし、その問題を解決するために様々な知識を関連させ、あるいは多面的・多角的に吟味することで解決の糸口を見つけていこうとする特性。

感性とは

五感をフルに稼働させ、自ら感じ取り内面（人間性）を豊かにすること。特に本学においては、様々な経験から得た学びや多様な考え方を関連させて新しい価値を創造していく特性。

専門性とは

専門性が強く求められる職業において理想を実現しようとする信念や態度のこと。特に本学においては、保健・医療や保育・教育の専門職としての理想を実現するために、自らを振り返り、よりよい自分を実現するための考え方や技能を得るための努力をし続けることができる特性。

市民性とは

幅広い教養を身に付け、高い公共性・倫理性を保持しつつ、時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、改善していくことができること。特に本学においては、阪神・淡路大震災の経験を踏まえ、有事の際に専門職としてだけでなく、一市民としてもできることを自ら見つけ出し、主体的に行動する特性。



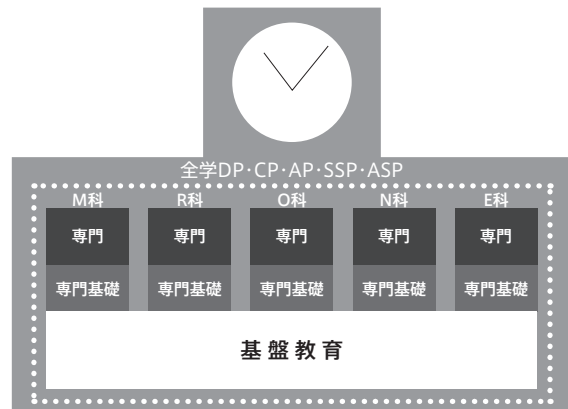
本学では「ときわコンピテンシー」は“学生が主体的にそれを修得しようとする態度を育成すること”を重視します。なぜなら「ときわコンピテンシー」は卒業後も「ときわびと」として歩み続けるための指針だからです。

したがって、本学の教職員は、学生が「ときわコンピテンシー」を身に付けていくために、「スチューデントサポート・ポリシー（SSP）」に則り、学生に積極的に関与していきます。

基盤教育の説明

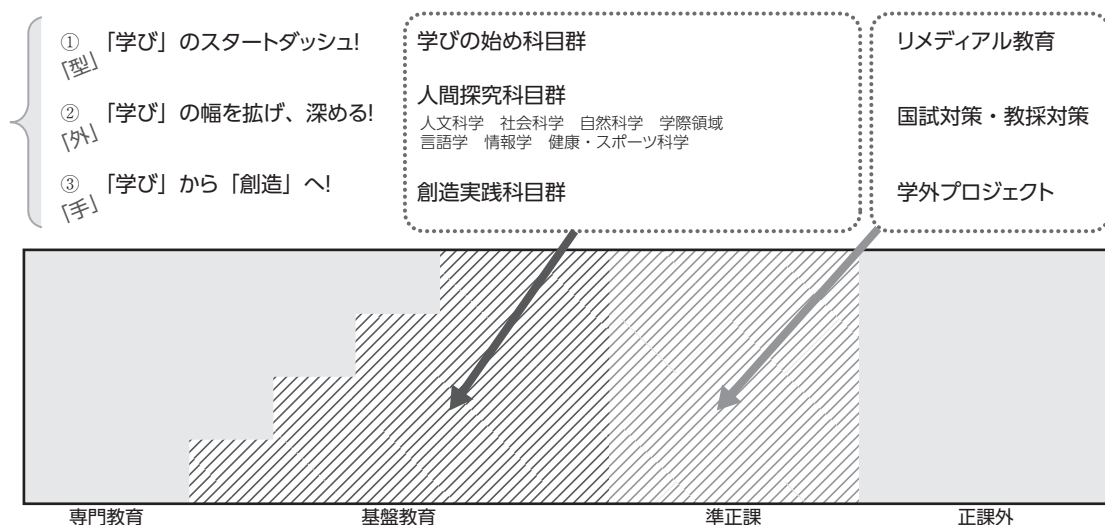
1. 基盤教育の位置づけ

基盤教育は、専門教育分野のもとに置かれるものではなく、全学のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーのもとに置かれ、編成されるものです。各々の専門の世界に限らず、色々な世界を目で見て、耳で聴き、心で感じ、学ぶ喜び、知る愉しさをからだいっぱい修得してもらうことが基盤教育全体のねらいです。



2. 基盤教育分野の説明

基盤教育分野では、授業科目は大きく3つの群—学びの始め科目群・人間探究科目群・創造実践科目群—to分類されます。学びの始め科目群では、大学での学びの「型」を修得し、自己を高める基礎的な力を身につけることをねらいとして、初年次教育科目が開講されます。人間探究科目群では、自らの内に閉じこもらず「外」に目をやり触れることにより、人間の幅を拡げることがねらいとして、幅広い多様な教養科目が開講されます。創造実践科目群では、まだないものを自らの「手」で新たに創り、未来を切り開き進んでいく力強さを身につけることをねらいに、アクティブラーニングやサービスラーニングを取り入れた実践型の授業科目が開講されます。



「大学を卒業した後も学び続けることのできる力」を〈基盤教育〉で身につけよう

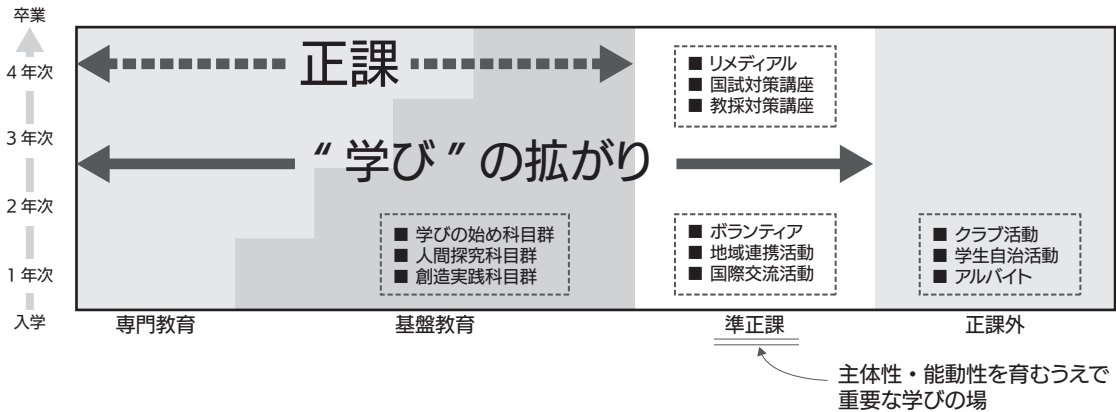
これまで社会はつねに変化し、社会が求めるものも時代とともに絶えず変化してきました。近年その変化の度合には著しいものがあります。今後はこれまでも増して社会は流動化し、時代はますます先行き不透明になると予測されます。そのため、すぐに役立つ知識や技術はいまや数年で陳腐化しつつあり、従来の常識に沿った教育手法では、大学で学ぶことの意義すら怪しくなりかねません。

そこで今後重要になるのは、単に有用とされる知識や技術の吸収だけでなく、「大学を卒業した後も学び続けることのできる力」です。この力は一見即効性に欠け、非効率的で、ややもすると無駄にさえ思われます。しかし、社会に出た後に真に効力を発揮するのは、まさにこの力であり、自ら見出した問いを解決するために探究するとき、あらゆる手段を駆使し、自らの答えを導いていく力で、これこそが真の「学び」です。



正課での学修はもちろんのこと、準正課・正課外での学びもとても重要

〈基盤教育〉は「**学びのスタイルを転換する**」ことに主眼を置いています。つまり、「受動から能動へ」「教育から学修へ」「教師中心から学生中心へ」パラダイム転換（その時代や分野において当然のことと考えられていた認識や思想、社会全体の価値観などが革命的にもしくは劇的に変化すること）を起こすことを通して、社会で生き生きと主体的、能動的に活躍できる専門職業人を育成することが最終的なゴールです。そのために、大学における“学び”の場を正課のみに限定せず、準正課・正課外にまで視野を広げる必要があります。むしろ主体性・能動性を育むためには、準正課・正課外における学習・活動こそが重要な学びの場となります。



全学共通カリキュラムツリー

全学DP
 学位授与の方針

とぎわコンピテンシー

知性

感性

専門性

市民性

←主体的に修得しようとする態度を形成

専門教育分野

医療検査学科

診療放射線学科

口腔保健学科

看護学科

こども教育学科

基盤教育分野

必修科目

全学CP
 教育課程の方針

選択科目 ※学科により異なる

創造実践
科目群

超とぎわびと

プロジェクトデザイン

地域との協働 B

コミュニティデザイン

地域との協働 A

学びの始め
科目群

まなぶる▶とぎわびとⅡ

大学道場
miniゼミ B

まなぶる▶とぎわびとⅠ

大学道場
miniゼミ A

情報
分野

数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)
 とぎわM'(MDASH)関連科目
 プログラミング入門 基礎統計学 情報メディア演習 情報基礎

健康・スポーツ科学

健康スポーツ科学Ⅰ 健康スポーツ科学Ⅱ 健康スポーツ科学Ⅲ

言語学系

アカデミックライティング
 コミュニケーション論
 多文化コミュニケーション
 手話コミュニケーション
 英語 C (Current Issues)
 英語 B (Presentation Skills)
 英語 Aa (Communicative English Advanced)
 英語 Ab (Communicative English Intermediate)
 英語 Aa (Communicative English Basic)
 英語コミュニケーションⅡ
 英語コミュニケーションⅠ

学際領域

いのちと共生
 人類と地球環境
 安全学
 人類と農学
 災害とまちづくり
 国際理解
 科学技術論
 生命と倫理

自然科学分野

人体のふしぎ
 現代社会と生命科学
 現代社会と化学
 暮らしの中の物理学
 暮らしの中の数学

社会科学分野

日本国憲法
 政治学
 経済学
 組織マネジメント論
 国際社会論
 心理臨床学
 人間関係論
 教育と人間

人文科学分野

哲学と倫理
 芸術文化論
 文学
 日本通史

人間探究
科目群

全学 AP 入学者受入の方針

保健科学部

保健科学部教育理念

本学部は建学の精神の下、“いのち”に対する知性と感性および、豊かな人間性と高い倫理観を身に着けた医療専門職の育成を目指している。

あらゆる健康レベルにあってその人らしい生を全うすることを希望している人々を、医療専門職として全人的（ホリスティック）に受けとめ、質の高い包括的医療を提供するには、それを可能にする能力を備えなければならない。超高齢化と少子化が進行している我が国にあって、セルフケアを基礎に、一次から三次までの医療を系統的に提供し、人々が暮らしている地域において質の高い包括医療を提供するにも知識と技術を身に着けることが重要である。さらに、グローバル社会にあっては人・物のみならず病気も容易に国境を超え、重大な問題になり得る。本学部はこのような広範囲な医療、あるいは応用的医療を提供できる、幅広い視野をもった医療専門職の育成を目指している。

また、現代医療は、再生医療、遺伝子医療、生殖補助医療、移植医療等、目覚ましい進展を遂げている。医療専門職には、進展する医療技術の成果を理解し、それを的確に提供する能力が必要になる。さらに、適切な医療を提供するうえで多職種の医療専門職が専門的役割と機能を発揮し、かつ協働して行うチーム医療の意義は大きい。医療専門職には、その重要性を認識し理解し、チーム医療の一員として協働してゆくための自覚が求められる。

以上の教育理念の下に、教育目標を掲げる。

教育目標

1. 医療専門職として、“いのち”に対する知性と感性を育み、心豊かな人間性、高い倫理観を養う。
2. トータルヒューマンケアの視点を身につける。
3. 進展する技術の成果を理解し、駆使するための基礎的能力を身につける。
4. チーム医療における専門職としての責務を自覚する。
5. 地域社会、国際社会において保健医療の向上に貢献できる基礎的能力を身につける。

アドミッションポリシー

1. 専門領域を学修するための基礎力と意欲をもっている人。
2. 人間に対する関心と愛情をもっている人。
3. 他者を理解し協働して行動できる人。

カリキュラムポリシー

本学部の各学科における学位取得のための当該知識・能力を、医療専門職として身につけるための教育課程を、以下のような視点から編成する。

1. 全学カリキュラムポリシーにおける「基盤教育分野」「専門教育分野」の編成方針に基づき、学部においても「基盤教育分野」における「学び始め科目群・人間探究科目群・創造実践科目群」を配列した。
2. 「専門教育分野」においては、さらに「専門基礎分野⇒専門分野」の二分野を設け各学科の専門性の内容が効果的に深化するよう編成した。なお三学科ともに科目を、「基本⇒展開⇒総合・発展」を原則として配列している。
3. 学部教育の主たるねらいとなるチーム医療を実践できる医療専門職を目指して3年次には「IPW（多職種連携論）」を、4年次には「IPW 演習」を配置し、学部間の多職間教育の充実のための、教育課程の編成に取り組む。
4. 学部合同開講の「国際保健医療活動Ⅰ、国際保健医療活動Ⅱ」他、地域・国際社会における保健医療福祉に貢献する人材育成に関連する科目群を配列している。
5. 「臨床力〈臨地（臨床）に身を置き、多様な現実を読み取り考え行動する力〉」を重視し、1年次の早期体験（アーリーエクスポージャープログラム）の取り入れや、3年次からの臨床実践における課題解決学修、将来の研究力発揮のための「卒業研究」を編成している。

ディプロマポリシー

1. トータルヒューマンケアの視点を持った医療専門職の態度を身につける。
2. 臨床検査・診療放射線・口腔保健のそれぞれの領域に関する専門的な知識・技術の基本を修得し、安全な医療を提供する基礎力を身につける。
3. チーム医療における専門職としての責務を自覚し連携力を身につける。
4. 地域・国際社会における保健医療福祉の向上に貢献できる自己研鑽力を身につける。